

2017 西部シンポジウム8

新・中海圏はいま ~共に興す~

鳥取発バイオ技術の未来

現状と展望を語る

—鳥取県西部でのバイオサインスの取り組みは。

押村 1990年4月、鳥

取大医学部に生命科学科が開

設され、初代教授として赴任

した。ようやく研究が社会に

役立ち、見える形で事業とし

て実り始めた。産官学の連携

拠点どつとりバイオフロン

ティアが設置され、さらに大手

製薬会社と共同で創薬を事業

化する新たな研究施設の整備

が文部科学省の地域科学技術

実証拠点整備事業に採択され

た。出発点に立ったと感じて

いる。

—鳥取バイオサインス振

興会（バイオ財団）は一貫し

て研究を支えてきた。

永瀬 昭和から平成に入っ

た頃、新しい時代が始まった

ので、若い経済人に鳥取県西

部圏域の将来を考え、実行に

移そうという機運が高まっ

た。新日本海新聞社の吉岡利

固社長を囲んだ会合で、メン

バーの一人が鳥取大にできた

生命科学科を生かせないかと

提案し、押村先生を招いて講

演を聞いた。バイオはよく分

からなかったが、時代を開く

ものだという感覚があり、7

千円余りを集めて財団を立

ち上げた。精神的な支援が多

かったかもしれないが、先生

の研究を前に進められたと誇

らしい思っている。

押村 文科省にさまざまな

概算要求書類を提出する際、

必ずバイオ財団の名前が入っ

ている。地域の方々に支援さ

れていることが大きな力にな

っている。

—鳥取県もバイオ振興に積

極的に関わってきた。

中山 民間が先導し、行政



中山貴雄氏

永瀬正治氏

押村光雄氏

県経済けん引期待 中山氏 地域の支援が力に 押村氏 若者集う仕組みを 永瀬氏

—鳥取県もバイオ振興に積極的に関わってきた。

中山 民間が先導し、行政

若者集う仕組みを 永瀬氏

地域の支援が力に 押村氏

県経済けん引期待 中山氏

—鳥取県もバイオ振興に積極的に関わってきた。

中山 民間が先導し、行政

若者集う仕組みを 永瀬氏

地域の支援が力に 押村氏

県経済けん引期待 中山氏

—鳥取県もバイオ振興に積極的に関わってきた。

中山 民間が先導し、行政

若者集う仕組みを 永瀬氏

地域の支援が力に 押村氏

県経済けん引期待 中山氏

—鳥取県もバイオ振興に積極的に関わってきた。

中山 民間が先導し、行政

若者集う仕組みを 永瀬氏

地域の支援が力に 押村氏

県経済けん引期待 中山氏

「トイドリバイオフロンティア」を拠点に創薬などバイオ産業の創出を目指す関係者らが7月、世界有数のサイエンスベンチャー拠点形成を目指す地域として注目される山形県鶴岡市の「鶴岡サイエンスパーク」を視察した。現地の状況などを踏まえ、関係者に鳥取県西部でのバイオ産業の課題や展望を語つてもうつた。

出席者

押村光雄氏（鳥取大名譽教授・染色体工学研究センター特任教授）
永瀬正治氏（鳥取バイオサイエンス振興会理事）
中山貴雄氏（鳥取県西部総合事務所長）

△進行△新日本海新聞社西部本社主幹・寺谷寛

がよそから集まり、またを元気にした歴史がある。まちを活性化にするのは「よそ者」「ばか者」「若者」といわれる。若者はバイオの世界でものすごく大切。もう一つばかりが必要。何はともあれ、この道を進むといつリーダーが行政だけでなく、経済界から開発をけん引する分野である。ただ自然環境が良い所だから、いい場所は道の技術を利用してクモの引き続き応援したい。

—鶴岡サイエンスパークを構築するには技術が

が伴するといつ形だつた。県は経済成長戦略にバイオサイエンス技術、創薬ビジネスを位置付けている。経済構造が変わる中で、技術・研究開発をけん引する分野である。ただ自然環境が良い所だから、いい場所は道の技術や知恵を生かし、集積することで、県西部が浮揚する力になる。人口が少ない県で持つてある技術や知識を生かし、集

イクルを構築するには技術が必要になるし、アパレルや宇宙服の開発に関わる会社などを次から次へと生まれる。す

べく似ている。自然をベースに目を向ながら先のこと

にした知的産業が興ったゆえを考へる若い人が集まる場所

が次から次へと生まれる。すんかと感心した。山形の友人があるはずだ。

—鶴岡サイエンスパークを構築するには技術が必要になる。鶴岡市は風景や自然が良い所だから、いい場所は道のタンパク質を調べ、クモの糸を作る。糸を編む工場が県内でも西部は移住・定住の1に当たる100億円を投じた。もちろん単年度ではなく、都会の人が評価している。最近決断が大変なものだと認めて、20年先を見据

いた。山形県の商工労働部長が最も重要なこと。

—新しい産業を育て、雇用を創出する力になる。押村先生の研究を掛け、慶應大先生所を決め10年、20年先を見据

ること。

—鳥取県西部の参考になることは。

—産業創造サイクルの

構築には技術が重要だが、鶴岡市は外から呼んできた。米子市には既に鳥取大学医学部の予算の7分の1に当たる100億円を投じた。もちろん単年度ではなく、都会の人が評価している。最

近の1に当たる100億円を投じた。もちろん単年度ではなく、都会の人が評価している。最

近の1に当たる100億円を投じた。もちろん単年度ではなく、